

くん
ちゃん
年 月 日 生まれ

予防接種スケジュール(3歳未満)

記入日

◎新しいワクチンが導入されたり、制度が変更されたりすることがあります。具体的な接種スケジュールは、最新のスケジュールをご確認のうえ、かかりつけ医と相談しましょう。

	標準的な接種時期	0か月	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	2歳
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
インフルエンザ菌b型(ヒブ) <small>不活化ワクチン</small>	2,3,4か月に各1回 12-18か月に1回														
肺炎球菌(PCV7) <small>不活化ワクチン</small>	2,3,4か月に各1回 12-15か月に1回														
B型肝炎(HBV) <small>不活化ワクチン</small>	2,3か月に各1回 5-11か月に1回														
ロタウイルス(経口) <small>生ワクチン</small>	1価ワクチン 2,3か月に各1回														
	5価ワクチン 2,3,4か月に各1回														
四種混合(DPT-IPV) <small>不活化ワクチン</small>	3,4か月に各1回 5-11か月に1回 12-18か月に1回														
三種混合(DPT) <small>不活化ワクチン</small>	3,4か月に各1回 5-11か月に1回 12-18か月に1回														
ポリオ(IPV) <small>不活化ワクチン</small>	3,4か月に各1回 5-11か月に1回 12-18か月に1回														
BCG <small>生ワクチン</small>	5-7か月に1回														
麻しん、風しん(MR) <small>生ワクチン</small>	12-23か月に1回 5-6歳に1回														
水痘 <small>生ワクチン</small>	12-15か月に1回 18-23か月に1回														
おたふくかぜ <small>生ワクチン</small>	12-15か月に1回 5-6歳に1回														
日本脳炎 <small>不活化ワクチン</small>	3歳に2回 4歳に1回 9-12歳に1回														
インフルエンザ <small>不活化ワクチン</small>	毎年10月、11月などに 2回														

生ワクチン 接種間隔は中27日

不活化ワクチン 接種間隔は中6日

定期接種の期間
 定期接種の接種可能な期間
 任意接種の推奨期間
 任意接種の接種可能な期間
 添付文書には記載されていないが、日本小児科学会として推奨する期間

予防接種スケジュールをお使いになる前に

- お子さんの名前と生年月日を書き込みましょう。
- 「〇か月」の下に月齢ごとの日付を書いておきましょう。

予防接種スケジュールの使い方

- 実際に接種した日付を記録しておきましょう。
- 接種の予約日を書いて受け忘れのないようにしましょう。
- 次回の接種時期の目安を書いて、接種スケジュールを立てましょう。
- 実際の接種スケジュールは、お子さまのかかりつけ医にご相談ください。

BCGワクチンで予防します

【結核】

大人ではせきや発熱が続く病気ですが、子どもの場合、体重減少、発達の遅れなどでみつかることもあります。赤ちゃんの場合は、粟粒結核そくりゅうけつかくや髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり、死亡することもあります。

麻しん・風しん混合（MR）ワクチンで予防します

【麻しん（はしか）】

熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、再び上がります。特有の赤い発疹が顔から全身へ広がります。子どもでは重い病気、かかると肺炎や中耳炎、脳炎を合併することもあり、死亡する例もあります。

【風しん（三日ばしか）】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの3症状が特徴の病気です。熱がでないことも多くかぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病けつしょうばんげんしょうせいしはんびょうになることもあります。

水痘ワクチンで予防します

【水痘（みずぼうそう）】

強いかゆみのある赤い水疱すいほうをともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

おたふくかぜワクチンで予防します

【おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）】

発熱とともに片方または両方の唾液腺たえきせん（※耳の下からあごにかけての部分）、特に耳下腺じかせんがはれる病気です。ふつう1～2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴になることもあります。

日本脳炎ワクチンで予防します

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運びヒトを刺し感染させ、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても多くは無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。一旦かかると治療法がなく、死亡や重い後遺症の危険性があります。

インフルエンザワクチンで予防します

【インフルエンザ】

悪寒や発熱、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと後遺症を残したり、死亡することもあります。

はいえんきゅうきん

で、菌血症、肺炎、脳を包む髄膜が炎症を起こす細菌性髄膜炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、重い後遺症を残したり死亡する例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階であることが多いです。

B型肝炎ワクチンで予防します

【B型肝炎】

B型肝炎ウイルスに感染しているお母さんから分娩時に感染するだけでなく、感染している父親や兄弟姉妹など周囲の人からも感染します。子どもの場合は原因不明の場合もあります。肝炎になり、慢性化すると肝硬変や肝臓がんの原因になります。

ロタウイルスワクチンで予防します

【ロタウイルス胃腸炎】

乳幼児がかかりやすい病気、嘔吐おうとと下痢を繰り返すと脱水症になります。けいれんや脳症を合併することもあります。感染力が大変強く、しばしば保育園・幼稚園などで流行します。

四種混合（DPT-IPV）または三種混合（DPT）とポリオ（IPV）で予防します

【ジフテリア】

ジフテリア菌がのどに炎症を起こす病気です。38度以上の熱と、犬の遠吠えのようなせきが特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし、死亡することもあります。

【百日せき】

連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態になることがあります。肺炎、脳症を併発することがあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌はしょうふうが傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなることもあります。

【ポリオ】

小児麻痺とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は熱が下がった後に片側の手足に弛緩性麻痺しかんせいを生じ、後遺症を残すことがあります。